大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（41）

～　特別活動で「自己有用感・自己肯定感」を育む　～

石垣市立平真小学校　校長　仲皿　利治

世界的に見ても日本の若者の自己肯定感は低いと言われていますが、平真小学校の児童も県版児童質問紙等の各種調査により「自己有用感・自己肯定感」の低さが課題だと分かりました。本校ではその課題解決に向け、石垣市の進める「勇気づけの教育」に基づき、「自他のよさを認め協働して課題解決に向かう児童の育成～学級活動・児童会活動の取組を通して～」を研究テーマに特別活動の研究を進めてきました。その取組をいくつか紹介します。

１．学級会を活発にし学級活動を充実させる実践

今年度はまず、学級会の進め方や話し合い活動の可視化に必要なグッズを統一するなど基本的な形を整えました。そうすることで学年が上がってもスムーズで活発な話し合いができるからです。

実践１「学級のシンボルマークをつくろう」では、全学級で「学級目標」や「合い言葉」が決まったら、児童の思いや願いをもとにシンボルマークをつくる学級会を行いました。事前に校長講話で学校のシンボルマーク「校章」にはどのような思いが込められているのかを伝えたことで、話し合いが活発に行われました。決定したシンボルマークは学級旗にして体育フェスティバルや校外学習等さまざまな場面で活用しました。子どもたちはみんなでつくった学級旗に愛着を持っています。

実践２「１年生と交流会をしよう」では、コロナ禍で１年生との関わりが少なくなった６年生がクラスごとの交流会を計画し実施しました。１年生が楽しめて６年生も仲間意識が高まるような交流会にするために内容やルールを工夫しました。６年生は１年生から感謝され満足感を味わうことで自己有用感が得られ、よりよい学校生活への改善意欲が高まりました。

２．児童会活動と学級活動がつながった実践

実践３「体育フェスティバルのテーマを決めよう」では、６年生から「楽しく思い出いっぱいの取組にしたいのでみんなの心が１つになるようなテーマを決めたい」と提案があり、学級会での話し合いを代表委員会に持ち寄って、目ざす体育フェスティバルにふさわしいテーマが決定されました。児童会発行の「運営新聞」には「コロナで２度延期になり待ち遠しいと思っていたので楽しみも増えていることでしょう。このテーマがみなさんの練習の励みになると思います。」とありました。児童がより意欲的に体育フェスティバルに取り組む姿が見られました。

実践４「あいさつ運動を工夫しよう」では、児童会運営委員会を中心に、週ごとに各クラスから子どもたちが校門に並びあいさつ運動を行っています。今年度は児童会と学級がリンクした各学級のアイデアあふれるあいさつ運動への取組がありました。例えば「すてきなあいさつをしたらカードを渡す」「校門でおみくじをひいて今日をハッピーにスタートしてもらう」「アーチやダンスで元気に迎える」「人気キャラクターに扮してあいさつ」などです。

３．特別活動で学力向上

このような特別活動の実践を通して子どもたちは話し合いの方法（手順）を理解し、自分の考えを持って話し合いに臨み様々な方法の中からより納得できる方法に合意形成を図ったり、自ら意思決定をしたりできるようになりました。また、決めたことをみんなで実践することで、やって良かったという達成感

が得られ、さらによりよい学校や学級づくりにこれからも頑張る意欲にもつながっています。

子どもたちは、自分が学級や学校の中で役に立つ存在であると感じることで、自己有用感が生まれ、自分はこのままの自分でいいという自己肯定感が高まります。それが自信となり意欲となってなりたい自分になれるよう努力するのではないでしょうか。

ある調査では、特別活動を通したよりよい生活や人間関係づくりは、受容的な雰囲気や学校生活の目標を達成しようとする意欲や態度を醸成し、学力と相互に関係していると結論づけています。つまり特別活動の充実を図り「自己有用感・自己肯定感」を高めることが学力向上へもつながるということです。平真小学校ではこれからも特別活動の充実に取り組んでいきます。